

消費者の「食の安全・安心」ニーズに呼応する環境負荷軽減に 配慮した大規模露地野菜産地の育成

県西農林事務所 結城地域農業改良普及センター

J A 北つくば結城園芸部会（部会員 316 名）では、発生予察を基にした害虫の地域一斉防除やレタスの結球期重点防除など地域ぐるみで環境にやさしい農業に取り組んでいます。平成 20 年からは GAP 手法を導入し、食の安全・安心を求める消費者・実需者ニーズに対応した産地を目指しています。

また、今後の産地を担っていく北つくば結城青年部は、立毛共進会や地元小学生への食農教育活動を通し、積極的に産地振興を図っています。

GAP 手法の導入支援

平成 20 年から導入された GAP 手法の取り組みを主要 11 品目で実施しました。生産者自らが生産工程の確認を行なうことで、食品事故等のリスク軽減や品質の向上に繋がっており、市場からは「実需者に安心して紹介できる商品」と一定の評価を得ています。



GAP現地監査の実施



フェロモントラップの設置

チョウ目害虫の新たな防除体系の普及

レタスの結球期に重点をおいた防除体系モデルの普及に向け、栽培講習会や個別巡回の機会に情報提供をしました。また、フェロモントラップによる発生予察を行い、市内一斉防除日を 9 月 15 日と 22 日に設定し、市内全農家約 3,000 戸にチラシを配布して一斉防除を呼びかけました。その結果、5 年前に比べチョウ目害虫被害が減少し、市場からの異物混入クレームが無くなりました。

食農教育に努める青年部の活動支援

上山川小学校の児童（5・6年生 55 名）を対象にトウモロコシ栽培収穫体験や学習会を実施しました。4 回で延べ 220 名の参加があり、地元の子供たちに市の特産品であるトウモロコシを PR するとともに、農業の楽しさを教えることができました。



トウモロコシの定植作業体験する小学生